

交流会



前回の交流会に引き続き、11月と2月の交流会でも、「子どもたちの日本語習得と学力について」保護者と話し合いをし、たくさんの意見がでました。

【ゆめの木教室】

- ・「ゆめの木教室」が拡大してできるといい。
- ・学校の先生たちも交流会に参加してほしい。
- ・「ゆめの木教室」で読解や文書を書くことを強化してほしい。
- ・高校入試の対策をしてほしい。

【保護者】

- ・親が多忙で考えられない。
- ・金銭的な問題があるため、日本の学校に通わせている場合がある。
- ・保見地区から出るために引っ越しを考えている家庭もある。
- ・2、3年で帰国を考えている家庭もある。

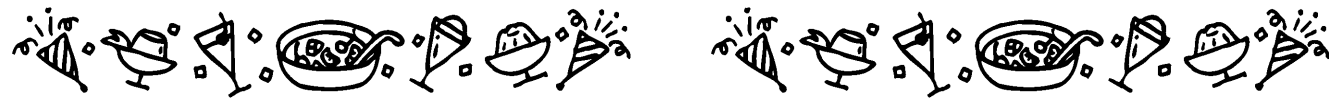
【学校／行政】

- ・一つの学校に外国人が多すぎる。
- ・学区がもう少し柔軟であるといい。
- ・学芸会ではきちんとルールが守れるのにどうして普段同じことができないのか。
- ・先生たちが困っていることを保護者も知りたい。



子どもたちの国 だより

2020年5月発行 Vol.42



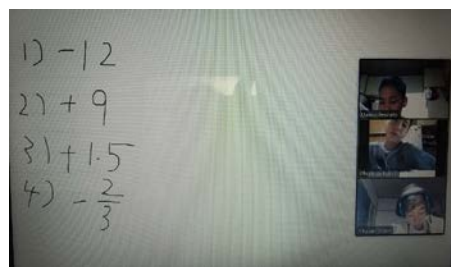
Zoom を活用したオンライン学習支援について

学校休業期間中の取り組み

学校が休校になり、家庭環境の違いによる教育格差の問題が一層深刻化しました。

この状況下、通訳の方のお力添えと担当スタッフの積極的な行動に支えられ、Zoomでの学習支援が実現しました。

はじめはドキドキハラハラのスタートでしたが、子どもたちは担当スタッフのやさしい声かけにより、伸び伸びと学習を進めることができました。



「子どもたちの元気な笑顔を見ることができました。」

新型コロナウイルスの感染拡大で小中学校が休校になりました。休業期間中のNPO法人「子どもたちの国」活動について、その一部をご報告させていただきます。(3月2日～5月24日)
「ゆめの木教室」で学ぶ約50名の子どもたちの保護者へ電話やメールで連絡を取り、子どもたちのようすや保護者の就労状況を尋ねました。

子どもたちの学習については、各学校のホームページで宿題等を確認することや当法人ホームページの多言語教材などお伝えしました。また、小学校と中学校に入学したばかりの小学1年と中学1年は親子ともにとっても不安な状況にあるため、Zoomオンラインで学習支援を行いました。

保護者の雇止めや労働時間短縮に関する相談は豊田市社会福祉協議会や豊田市国際交流協会のホームページなどを紹介させていただきました。

●放課後学習支援事業「ゆめの木教室」

小中学生：月曜日～金曜日 午後2時～6時

●青少年の健全育成のための事業

問題を抱えた子どもとその家族に対し

●青少年の自立支援事業「そら」

木曜日：午後6時30分～8時30分

随時相談・援助を行なう

●交流会 年4回開催

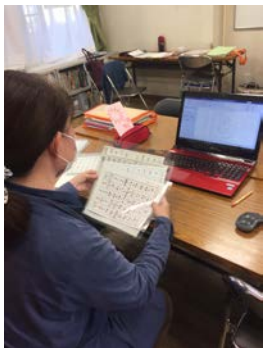


ゆめの木教室

「ゆめの木教室」ではスタッフ間で子どもの様子を共有するため、毎日メールで報告を行っています。また小学校、中学校とも情報交換を行い、子どもの学習の様子を共有しています。

- 1年：算数テストが90点でした。よく読み取れています。
- 2年：文章読解のドリルの問題で、「紙を折り曲げて、折り目をつけ、左右を強く引っ張りながら、紙をさく・・・」というような文章がありました。理解はとても困難でした。古紙を使い、その一つ一つの工程を言葉と動作で確認し、なんとか理解することができました。遊びの中で繰り返し言語化と動作化を練習させることが必要です。
- 2年：九九の練習をしました。6～8の段はまだ時々間違えます。
- 3年：2桁×2桁、全てやりました。たし算等の間違いが少しあります。
- 3年：長さの問題で1目盛りがどれだけか見つけられません。
- 4年：都道府県名を歌で覚えています、地図上の位置が分かっていません。
- 4年：カタカナの長音表記がよく分かっていないようです。
- 5年：割合の表し方を勉強しました。
- 5年：三角形、四角形の面積の公式を覚えていませんでした。
- 6年：概数が分かっていません。
- 6年：音読を頑張りました。少し複雑な体積の出し方を自分で考えてできるといいです。
- 6年：漢字テストで語句の意味をポルトガル語で確認しました。

ゆめの木漢字検定



令和元年度も基礎漢字の定着を目指し、月1回「ゆめの木漢字検定」を実施しました。

一部の児童は80点以上の点数を目指し、頑張る姿が見られました。

6年生の中には学年相当の漢字に挑戦する児童も現れ、昨年度よりも充実した「ゆめの木漢字検定」になりました。



日本語力テスト

「ゆめの木教室」では、子どもたちの言語習得状況をより具体的に把握するため、小学生24名を対象に文部科学省初等中等教育局国際教育課発行の『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント (Dialogic Language Assessment)』を用いて、日本語とポルトガル語の「会話力」を測定しました。



【日本語の会話力の結果】

- ステージ2 (初期レベル) 7名
- ステージ3 (簡単な会話が可能なレベル) 8名
- ステージ4 (日常会話は問題ないが、認知要求度が高いタスクが困難なレベル) 9名

認知面の高さが要求されるタスクをこなし、説明や意見を述べることのできる児童は現時点ではない。



この地域では学校生活の場で日本人同級生と学び合う機会は限られています。この特殊な言語環境下で児童の持っている力を活かし、教科学習を進める上で重要な認知面の会話力を伸ばすことができる教育の確立が課題となっています。児童の言語習得状況を把握することで、より効果的で効率的な支援方法を検討し、基礎学力を向上させることができる取り組みを継続していきたいと思っています。

そら



自粛中の「そら」では、スタッフが青少年に電話連絡をし、困ったことや相談事がないか状況確認を行っています。



【「そら」の青少年の近況】

- 仕事の時間が減らされて、経済的に苦しい。
- 家族がクビになった。
- 子どもが家で全然勉強しない。自分でできない。
- まだ解雇はされていないが、時間を減らされている。今後は心配。

